

校番	10	学校名	広島県立尾道北高等学校	校長氏名	藤本 秀穂	全日制課程	本校
----	----	-----	-------------	------	-------	-------	----

## 1 ミッション（地域社会における自校の使命）

「至誠一貫」の校是のもと、広く知性を涵養し、豊かな心と高い志を育むことによって、新しい時代を拓く人材の育成を図る。

## 2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

グローバル社会での活躍を期し、

- (1) 生徒が主体的に学ぶ力を育てる学校
- (2) 豊かな人間性を培い、社会の持続可能な発展に貢献するリーダーを育てる学校
- (3) 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する学校

## 3 ターゲット（今年度重点目標）

- (1) 学力向上（主体的学習の促進）
- (2) 働き方改革（働き甲斐のある職場）
- (3) ICT活用推進（効果的な教科指導、効果的な校務処理）

## 4 環境分析

## (1) 生徒が主体的に学ぶ力を育てる

本校は、これまで広島版「学びの変革」アクションプランの推進に伴い、平成29年度から、ICT活用推進プロジェクト事業に取り組み、ICTを活用した授業への取組及び授業改善に力を注いできた。また、平成30年度からはカリキュラム・マネジメント委員会を設置し、育てたい生徒像である〈学びに自ら働きかける生徒〉を明確に示す「めざす尾道北高校の学び」の作成に取り組み、令和元年度から学校生活の様々な場面での提示を行い、総合的な学習（探究）に時間や学校行事でのアクトグラフでの振り返りなどの場面で活用してきた。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
授業評価アンケートにおいて「この授業を受けて、課題を解決するために必要な思考力が高まった」という肯定的回答の割合	78.9%	83.1%	81.1%	81.1%
授業評価アンケートにおいて「この授業を受けて、問う力ついた」と回答の割合	—	—	—	76.9%
授業評価アンケートにおいて「自分で判断して家庭学習をする力ついた」と回答の割合	—	—	—	78.1%

教科指導力の向上、生徒の学力を最大限に伸ばすことについては、本校が長年取り組んできた目標設定を、今後もプロセス検証と目標設定を維持していきたい。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
年間の平均学習時間（1年）	199分	201分	198分	205.5分
年間の平均学習時間（2年）	200分	220分	203分	222.4分
年間の平均学習時間（3年）	289分	262分	283分	285.9分
1年進研模試（7月・1月）の国・数・英の平均点偏差値	7月 57.4	7月 58.5	7月 55.4	7月 56.5
	1月 60.6	1月 59.9	1月 56.3	1月 60.1
2年進研模試（7月・1月）の国・数・英の平均点偏差値	7月 60.6	7月 59.4	7月 58.7	7月 54.9
	1月 60.6	1月 59.6	1月 58.9	1月 57.3
2年進研模試（1月）の理科・地歴公民の平均偏差値	理科基礎 64.7	理科基礎 59.5	理科基礎 63.0	理科基礎 58.4
	理科専門 56.2	理科専門 55.3	理科専門 56.7	理科専門 53.4
	地歴 59.7	地歴 58.3	地歴 58.8	地歴 55.7
	公民 59.0	公民 57.9	公民 59.1	公民 58.8
大学入試センター試験で全国平均(100点換算)で5点以上上回った科目数	10/14	11/14	8/14	8/14

1・2年次からの高い志を持つ集団づくりなどの取組により国公立大学への現役合格率は70%近い数字であり、広島大学・岡山大学への安定した合格者を出している。今年度も継続して、最難関大学への現役合格者も出しており、キャリア学習の成果を踏まえつつ、今後とも生徒の夢をかなえる組織づくりを進めていく。

令和元年度卒業生進路実績

	平成 28 年度卒 (29 年度)	平成 29 年度卒 (30 年度)	平成 30 年度卒 (31 年度)	令和元年度卒 (2 年)
難関大学・国公立医学部医学科・歯学部・薬学部合格者数（現・浪）	25 人	29 人	27 人	25 人
広島大学・岡山大学合格者数（現・浪）	39 人	29 人	20 人	27 人
国公立大学の現役合格者の割合	67.7%	70.7%	66.1%	63.9%

(2) 豊かな人間性を培い、社会の持続可能な発展に貢献するリーダーを育てる

ア グローバル人材の育成について

海外短期留学や、語学研修、外国人講師による課題発見型英語研修であるエンパワーメントプログラム等様々な取組を実施している。昨年度は、国内外のグローバルな視点で構成されたその他の課外活動に 26 名の生徒が参加した。また、1 年次生を対象としたオーストラリア短期留学に 38 名（感染症対策 17 名辞退）、エンパワーメントプログラムには 53 名の参加申込があったが、残念ながら中止となった。今後、SDGs の視点を踏まえ世界的な諸課題への関心を高め、グローバル社会に対応した人材を育成する必要がある。

また、特定の生徒のみが行う異文化体験だけではなく、全生徒が異文化を背景に持つ人と、英語を通じてコミュニケーションし、課題解決に取り組む場面の設定することを考え、昨年度より海外への修学旅行を実施している。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
グローバルな視点で構成された課外活動等に自らが進んで参加している生徒数	34 人	53 人	106 人	117 人

イ リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成することについて

例年、年間を通して約 90%の部活動がボランティア活動に参加し、目標値を達成してきている。今後も、道徳性や社会性を高める取組を、あらゆる教育活動を通して進めていき、外部の社会活動への参加も促していく必要がある。

ライフガイダンスルームを昼休憩に開設するとともに、特別支援教育コーディネーターと養護教諭による相談日を 6 回開設、月 1 回「ライフガイダンスルームだより」の発行などの広報活動を定期的に行った。

今後も、命の大切さを学ぶ取組をさらに充実させるとともに、不登校生徒への予防措置と取組について、学校として組織的に知見を深めていく必要がある。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
「生徒会活動・行事・LHRの中で、人としてのあり方生き方、命の大切さ等を学ぶ経験をした」という生徒へのアンケートの肯定的回答の割合	61%	64%	68%	69%
部活動加入率	86.7%	85.8%	85.4%	86.8%
「校内の清掃や美化活動に努めていると思いますか」という生徒へのアンケートの肯定的回答の割合	92%	87%	87%	89%

(3) 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する

ア 地域社会に信頼される学校づくりを推進することについて

入学者選抜志願者数については、定員割れの年もあり募集はやや不安定な面もある。市内中学校出身者は約 60%である。県東部の進学校としての本校の役割を考え、今後とも積極的に広報活動を展開し、生徒募集を強化する必要がある。今年度はこれまで非公開で実施していた文化祭の一般公開を行い、またオープンスクールにおいても在校生及びPTAとの対話的活動を重視している。

入学者選抜志願者数 (単位：上段は志願者数/定員、下段は倍率)

( ) 内は受検年度	平成 28 年 (29 年度)	平成 29 年 (30 年度)	平成 30 年 (31 年度)	令和元年 (2 年度)
選抜 (I)	71/60 1.18	59/60 0.98	83/60 1.38	58/60 0.97
選抜 (II)	159/140 1.14	134/141 0.95	155/140 1.11	144/142 1.01

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
ホームページの主たる内容（行事等）の更新回数	148 回	156 回	95 回	72 回
「尾道北高だより『槇峰』」の発行回数	6 回	8 回	8 回	5 回
該当中学校への本校情報提供の回数（出前授業含む）	年 21 回	年 22 回	年 20 回	年 21 回
オープンスクールへの参加者	571 名	558 名	612 名	542 名

#### イ 働き方改革について

時間外勤務が恒常的に発生していることや土日の部活動指導等、教員の負担が多い現状に鑑み、平成 29 年度から水曜日を定時退校日とし、18 時には全員退校すること、部活動指導については、土日のうち 1 日は練習日を設けないことを徹底してきた。平成 30 年度は土曜教室を取りやめ、職員の実質的な週休日を確保するとともに、学校経営計画に本校としての目標設定をすることにより、かなり職員全体に浸透してきた。令和元年度は、朝学や追試への取組を工夫してきたが、今年度は放課後補習の再検討や家庭学習時間調査への ICT 機器の活用を行い、働き方改革を推進する必要がある。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
授業評価、学校評価アンケートの「ICTの活用による授業改善や業務改善がなされているか」に対する肯定的回答の割合	生徒評価 85% 教員評価 授業 86% 業務 85%	生徒評価 94% 教員評価 授業 88% 業務 84%	生徒評価 92% 教員評価 授業 89.5% 業務 80.0%	生徒評価 92% 教員評価 授業 97.4% 業務 76.9%

4 目標の設定

学校経営目標							
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
1 生徒が主体的に学ぶ力を育てる							
1-1 生徒自身が主体的に学び、問いを振り返ることができる	授業評価アンケートの「問う力」がついたと回答した割合	76.9%	80%	83%	85%	教育研究	
	授業評価アンケートの「自分で判断して家庭学習をする」と回答した割合	78.1%	80%	83%	85%		
1-2 生徒が学習意欲を高め、確かな学力を身に付ける	1年進研模試（1月）の3教科総合偏差値	60.1	60.0	60.0	60.0	進路指導	
	2年進研模試（7月・1月）の3教科総合偏差値	54.9 (7月)	60.0	60.0	60.0		
		57.3 (1月)					
	1年進研模試（7月）3教科総合偏差値に対する1年1月、2年1月の偏差値の上昇	1年 +3.6	+3.0	+3.0	+3.0	各学年	
2年 +1.9		+3.0	+3.0	+3.0			
1-3 新しい大学入試への対応	大学入学共通テストで全国平均を5点以上上回った科目数	8/14	全科目	全科目	全科目	進路指導	
	大学入学共通テストの平均点を80点以上上回ったの生徒の割合	26.1%	30%	30%	30%		
	難関大学・国公立医歯薬学部・広島大学・岡山大学合格者数	52人	55人	55人	55人		
2 豊かな人間性を培い、社会の持続可能な発展に貢献するリーダーを育てる							
2-1 新しい大学入試における主体性の評価も含めた多面的・総合的な評価への対応	外部のセミナー、コンテスト、コンクール等へ参加（応募）した生徒（1、2年）の割合	29.8%	40%	40%	40%	教育研究 各学年	
2-2 自律的で社会に貢献する態度（ボランティア精神など）	年間を通して、校内外のボランティア活動に参加したのべ人数	630人	650人	650人	650人	生徒指導	
2-3 生徒一人ひとりの学校生活が大切にされた相談しやすい体制の構築	「悩みごとを気軽に相談できる場が校内にありますか」の肯定的回答の割合	79%	80%	80%	80%	健康教育	
3 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する							
3-1 中高の相互理解を深める取組及び中学校や地域社会への説明責任	オープンスクールへの参加者	542名	600名	600名	600名	総務	
	「勉強は大変だが学校は楽しい」に対する肯定的回答の割合	新規	70%	80%	90%	生徒指導	
3-2 限られた時間で成果をあげる工夫	時間外勤務が平均80hを超える者の割合	28%	20%	10%	0%	管理職	
3-3 ICTを活用した業務改善や授業改善	学校の業務に関する効率化への提案・実施数	新規	10件	10件	10件		
	前年度よりもICTを活用する授業が増えた教員の割合	新規	80%	85%	90%	ICT委員会	

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 生徒が主体的に学ぶ力を育てる			
□ 1-1 生徒自身が主体的に学び、問いを振り返ることができる	○生徒の主体的な学び、深い学びを育成する授業を実践する。 ○「問う力」を育成し、授業評価で検証する。	○主体的な学びの在り方を教科内で企画・検討・実施し、カリキュラム開発を行う。 ○生徒が自己を振り返り、主体的に行動することができる。	教育研究
1-2 生徒が学習意欲を高め、確かな学力を身に付ける	○緻密な進路指導及び教科指導 ・進研模試（7・1月）を指標とし、習熟度に応じた指導を行い、PDCAサイクルを機能させ、目標管理によって指導の改善を図り、生徒の学習意欲を向上させる。 ・模擬試験結果分析を行い、その分析内容を生徒の学習指導及び授業改善につなげる。（年3回）	○学力各層の生徒の課題を明らかにして必要な学習指導及び教科指導体制を確立する。	進路指導 各学年
1-3 新しい大学入試への対応	・センター試験分析（5・2月）を行い、教科指導力の向上につなげる。 ・入試問題研究を行い、その成果を授業、入試問題セミナー、定期考査問題の作成につなげる。（7月以降）	○入試問題分析のデータベースを蓄積し、入試問題分析集を作成する。入試の指導法を教科全体で共有する組織体制を構築する。	進路指導 各教科
2 豊かな人間性を培い、社会の持続可能な発展に貢献するリーダーを育てる			
2-1 新しい大学入試における主体性の評価も含めた多面的・総合的な評価への対応	○探究活動、キャリア学習を充実させる。 ・「産業社会と人間」（1年次）「エクスプローラーセミナー」では、地域やグローバルに関する課題を発見する。 ・「産業社会と人間」（2年次）では、生徒の学部・学科研究を行い、進路目標を設定させる。 ・「課題研究セミナー」（2年次）では、探究的・体験的な活動を実施し、具体的な研究テーマを設定させ、探究させる。3年次には探究活動をまとめた成果発表会を実施する。 ○外部団体が実施するセミナーやコンテストを集約し、各学年、分掌と協力して生徒に提示していく。 ○アクトグラフを活用して各個人の活動を振り返り、ポートフォリオ化を進める。	○「産業社会と人間」、「エクスプローラーセミナー」、「課題研究セミナー」などの探究活動やキャリア学習を通して、主体的な学習者を育成し、高い志を持たせる。 ○各教科及びキャリア学習を通して探究活動を進め、主体的な学習者を育成し、高い志を持たせる。 ○JAPAN e-Portfolio への適切な接続体制を構築する。	教育研究 各学年
2-2 自律的で社会に貢献する態度（ボランティア精神など）	○マナー指導を充実させる。 ・交通マナー、相手を思う気持ち、尊重する態度を身に付ける。 ・生徒会（交通委員会）が中心となり、前・後期各2回以上登校指導を行う。 ・生徒主体の活動を増やす。 ・PTA（健全育成委員会）と協力し、交通マナー向上を目的とした下校指導を行う。 ○全校生徒に対して、個人、団体で年に1回以上のボランティア参加を促す。	○生徒会、教職員、保護者の協力体制のもとで規範意識を高める指導体制を確立する。 ○全校体制で校内・校外でのボランティア活動に参加し、地域社会への貢献を果たす。	生徒指導

<p>2-3 生徒一人ひとりの学校生活が大切にされ、相談しやすい体制の構築</p>	<p>○教育相談体制を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期及び随時の特別支援教育会議・プロジェクト会議を開き、情報の共有や対応の協議をする。</li> <li>・スクールカウンセラー（SC）を効果的に活用（面談・研修会）し、生徒・保護者・教職員への支援を行う。</li> </ul> <p>○不登校予防を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査活用、面談実施から要支援生徒の早期発見・対応につなげる。</li> <li>・構成的グループエンカウンター（SGE）によるクラスづくりワークを設定し、新入生が早く高校生活やクラスに慣れるようにする。</li> </ul>	<p>○関係機関と連携し、学校に適切にくい生徒を早期から、プロジェクトチームを立ち上げ組織的に支援する体制を確立する。</p>	<p>健康教育</p>
<p>3 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する</p>			
<p>3-1 中高の相互理解を深める取組み及び中学校や地域社会への説明責任</p>	<p>○生徒募集活動を充実させる。 〈説明会等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の訪問受け入れ</li> <li>・文化祭の一般公開</li> <li>・中学校主催の進路説明会</li> <li>・中学校への訪問</li> <li>・オープンスクール</li> <li>・本校主催の入試説明会</li> </ul> <p>〈資料等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報用資料（学校パンフレット等）の充実を図る。</li> </ul>	<p>○本校の広報戦略を整理し、組織的体系的な広報活動を確立する。</p>	<p>総務</p>
<p>3-2 限られた時間で成果をあげる工夫</p>	<p>○学校行事など生徒の主体的活躍の場や評価の場を広げる。</p> <p>○生徒の活躍を校内独自で表彰する。</p>	<p>○生徒が主体的に活躍する場が広がり、より学校生活が充実したものとなる。</p>	<p>生徒指導</p>
<p>3-2 限られた時間で成果をあげる工夫</p>	<p>○勤務時間の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進をする。</p> <p>○学校及び教師が担う業務の明確化・適正化。</p> <p>○学校の組織運営体制の在り方を見直す。</p>	<p>○時間外勤務に係る上限規制に従うために業務削減を行う。</p>	<p>管理職</p>
<p>3-3 ICTを活用した業務改善や授業改善</p>	<p>○ICT環境の整備を進め、効果的な活用による授業改善や業務改善を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教職員がICTを活用した授業を実践する。</li> </ul>	<p>○すべての教職員がICTを効果的に活用し、生徒の主体的な学びを育成するための授業を実践するとともに、教材のデジタル化、共有化を積極的に進める。</p>	<p>ICT委員会</p>